

クラシック・カフェとは？

カフェマスター 山田武彦 常連マダム 松本志のぶ

「クラシック・カフェ」——2007年に東京都大田区でオープンして以来、日本各地にて出店してまいりました。抜群にピアノが上手いカフェマスターと抜群にトークが上手い常連マダムが毎回様々なお客様（ゲスト）をお迎えしてお届けする、ここでしか聴けないメニューが満載！広島初出店となる今回の公演では、NHK大河ドラマ「青天を衝け」紀行編の演奏で注目を集める、バンドネオンの若き名手・三浦一馬を迎えます。開催を前に、マスターとマダムにお話を伺ってみました。

—クラシック・カフェとはどんなカフェなのでしょう？

山田：広島県ご出身の頼近美津子さんの発案で、ふらっと近所のカフェに立ち寄ると楽しいお話と本格的な音楽が楽しめる、そんな気軽さでコンサートにお越しいただきたいという趣旨で始めました。2009年から松本志のぶさんに常連マダムとして加わっていただき、ずっと一緒にいただいています。



遠藤真理（チェロ）

—いわゆる“クラシックのコンサート”とはここが違う、というコンセプトをお聞かせください。

山田：演奏をお楽しみいただくのはもちろんですが、その演奏家の方が日頃どんなふうに取り組んでこられているか、その演奏の裏側を垣間見ることができます。幼い頃どんなふうで育ったのか、ということなども伺いながら、苦労話や意外な横顔も見られることでしょう。

松本：素晴らしい演奏を聴くときに、その楽器や楽曲、演奏している方の人となりについてのお話が加わると、ちょっと得をした気持ちになれる上に音楽をより濃く深く楽しめますよね。「クラシック・カフェはすぐにでも誰かに知ったかぶりして話したくなるお話がたくさんあって楽しい！」と声を寄せていただくことがよくあって、嬉しく思います。肩ひじ張らずに音楽を心から楽しみたい方には最高の時間になると思います。

—これまでご来店されたお客様のエピソードがありましたらこっそり教えてもらえないでしょうか？

山田：一見“コワモテ”で大人気のヴァイオリニスト、石田泰尚さんがステージ上であんなに沢山しゃべったところを聞いたのはクラシック・カフェ以外では考えられ

ないほどでしたね。松本志のぶさんがあれよあれよという間にお話を引き出しました。また志のぶさんはゲストの方の楽器に挑戦されて音を出してみることがあるんです。藤原道山さんの尺八に挑戦して「いやさすがに尺八は難しいでしょう、と思っていたら道山さんがさっと楽器の位置をちょっとだけズラした途端、ブーツという音が鳴って、ということもありました。こういうことがあると聞いているお客さまも楽器に挑戦してみたくなりませぬ。

松本：ゲストの方々から「こんなに喋ったステージは初めてです」とよく言われます。めったに聞けない演奏家ご自身が語るお話をたくさん聞けるのも、クラシック・カフェならではの楽しみではないでしょうか。そう言えば、読響のソロ首席ヴァイオリン奏者の鈴木庸浩さんに「ヴァイオリン」の存在を教えていただいたときは驚きました。私たちはめったに使わないけれどヴァイオリンを弾くときに必要な手の一部の筋肉が、本当にこもりと鍛えられて膨らんでいたんです。その道のプロの地道な鍛錬の結果が音以外にも見られて興味深かったです。それから今回のゲスト、三浦一馬さんからはとんでもないオファーが！カフェ当日の朝に完成したという新曲に「タイトルをつけていただけますか？」と本番直前に言われて。ものすごいプレッシャーを感じながら三つ候補を絞り出しました。本番で一馬さんに選んでいただくまで、ドキドキが止まりませんでした！



石田泰尚（ヴァイオリン）

—今回のお客様はなんでもバンドネオンを演奏される方ということですが。

山田：いまや日本が誇る若き巨匠・三浦一馬さんです。僕もしばしば共演させていただいています。「悪魔が発明した楽器」と言われるほど演奏するのが難しいのですが、ある時は激しく情熱的に、またある時はむせび泣くように、またはクールに、とまるで人間の声のように楽器を操って演奏されるんです。初めの音を出した瞬間から空間が別の世界に変わったような印象になります。お楽しみください。

松本：バンドネオンは、ボタンの並びが信じられないくらい不規則で、聞けば聞くほどどうしてスムーズに曲を奏でられるのかが分からなくなるくらい不思議な楽器です。誰もが良く知るアコーディオンとも違う魅惑の箱から、情熱的で時に哀愁も漂うメロディーが響いて、兎にも角にもカッコいい！異国情緒溢れるサウンドなのに、なぜか懐かしさも感じられるピアノの楽曲は、聴かなきゃ損ですよ！



三浦一馬（バンドネオン）

—マスターがステージ上で淹れるコーヒーも評判だとか。そうなるとお茶請けも気になるのですが・・・

山田：・・・ま、マスターですからね。頑張ってるステージ上で淹れさせていただきます（本当は毎回手が震えるんですが）。いつも地元のお菓子屋さんにご協力いただき、おいしいお菓子を提供していただいています。お客さまもよくご存じのお店ですが、知られざる銘品もお楽しみいただいて、そちらも是非ファンになっていただきたいです。

松本：ステージ上で本当にコーヒーが振る舞われて、ゲストの方も皆さん驚かれます。でもこれが本当に美味しいから、またびっくりです。マスター、いつもありがとうございます！

—ずばりお二人が思うクラシック・カフェの見どころ、聴き所はどこでしょう？

山田：是非ともふらっとお立ち寄りください。生の演奏、ライブの音楽を楽しんでいただくのが一番と思います。演奏される方は普段はおしゃべりと演奏を交互に、という方はそれ程多くないと思います。その場で明かされるお話・その場で繰り上げられる音楽のやりとりを是非お楽しみください。

松本：なんとと言っても「音の魔術師」山田マスターの魔術師ぶりです。お客様に寄り添い、時に思いっきりリードし、お客様の最高のパフォーマンスを引き出します。演奏家の皆さんからの信頼も厚い山田マスターとお客様とのセッションには、他では味わえない魅力があります。時に踊るようにピアノを弾くマスターの情熱的な演奏姿を見逃さないでください！

—これまで広島にお越しになられたことはありますか？お気に入りのグルメや観光名所がありましたら教えてください！

山田：学生の頃、プロ野球のオールスター戦の中で、ハーフタイムショーというのがありまして、市民球場の外野席にキーボードを置いて、そこで演奏するアルバイトのため初めて広島に伺いました。30年以上前ですね。試合前にホームラン競争というのがありまして、名だたるスター選手がボーンとものすごいのを打つんです。「お前、楽器があるんだからホームランが来ても逃げないで楽器守れよ」と先輩に言われたその瞬間、ミスター赤ヘル・山本浩二さんの打球が頭に！！そのあとは覚えていません。終わったらお好み焼きやさんに連れていってもらって、美味しい！って言ったら、「そうか、じゃもう一軒行こう」と結局4箇所のお好み焼きを食べさせてもらいました。。いや本当においしかったです。

松本：スポーツ番組担当時代、市民球場で取材をして、夜はお好み村でお腹いっぱいいただきました！ある時は、突然思い立って朝一番の新幹線に飛び乗って、原爆ドームと厳島神社を訪ねました。10年ほど前から私のいとこ家族が福山に住んでいるのですが、9歳になる私の娘はまだ訪れたことがなくて。今一番行ってみたい土地なのだそうです。小学生の子供連れ楽しめる場所やお食事処をぜひ教えていただきたいです！

—広島のみなさまにメッセージをお願いします。

山田：広島で「クラシック・カフェ」を開催（開店）させていただきます。カフェ・マスターとしてステージで皆さまにご挨拶させていただきます。“当店”自慢の演奏、楽しいお話を是非ともお楽しみください。

松本：クラシック「通」の方はもちろん、そうでない方も楽しめる「クラシック・カフェ」の良さは、通い始めて13年の常連の私が保証いたします！皆さんも、良質の音楽を美味しいコーヒーとともに味わってみませんか？

ゲスト・三浦一馬さんから
メッセージが届いています。



広島の皆さんご無沙汰しております。

バンドネオン奏者の三浦一馬です。「東広島芸術文化ホールくらら」には昨年キンテートで伺いましたが、今年は同じホールで山田武彦マスターがカフェを<開店>されるそうで。最初のゲストとしてお邪魔させていただいて、今からとても楽しみです。マスターの淹れる美味しいコーヒーを呑みながらあれこれ談笑し、音楽を楽しむひと時を、お越しになられた皆さんと共有できれば嬉しい限りです。

皆様のご来店を心よりお待ちしております！